

TAC 電験三種講座

入江先生からのメッセージ

23.09.29



過去問との向き合い方

前回の試験にて、過去本試験で出題された問題が再出題されたことから、過去問題の学習の重要度は以前に比べさらに上がっていますが、注意点として、過去問題だけを実施すれば簡単に合格できるようになったわけではありません。

過去問題といっても電験三種の過去問題なので、レベルは高く、簡単に覚えられるようなものばかりではなく、その数・バリエーションも膨大な数となるので、やはり学習の方針は従来とあまり変わらず、多くの問題に対応できる「理解すべき原理」を学習し、原理をどう使えば問題が解けるかと考えるべきです。

一つの原理を理解し、使いこなせるようになることで、多くの問題を解くことができ、新規の問題にも対応できるようになります。

時間は有限ですので、あまり1問の問題に固執しすぎず、効率よく学習を進めましょう。

それをふまえた過去問題の取り組み方について、以下記載致します。

①間違えた原因の分析から、弱点を見つける

計算ミス、公式を覚えていない、そもそも問題の意図がわからないなど、問題が解けなかった原因は様々ですが、その原因によって対策が変わりますので、しっかりと弱点を自覚できるようにしましょう。

②解けなかった問題は、「解けなかった → 解答解説を見よう」で終わらない

解答解説を見ればその場ではすぐに解決しますが、自分の頭には残りにくく、試験で使える力にはなっていないので、

例えば「解けなかった → 正答番号を確認 → その番号になる理由を考える → 解答解説を見よう」といった流れで実施すると、

思い込みなどは補正され、単純なミスなどに気付きやすくなります。

また、自ら悩んで考えたことは頭に残りやすいので、本試験での得点が安定します。

TAC 電験三種講座

入江先生からのメッセージ

23.09.29



過去問との向き合い方

③解けた問題も簡単に解答解説を見ておく

解答解説にて、勘違いしていないか、 $\pm\alpha$ の情報がないかなどを確認しておくが良いです。

特に知識問題は読んでおくだけで他の問題が解けやすくなることも多いです。

④計算問題は解答解説に依存しすぎない

解答解説はあくまで解答例であって、この通りに解くように絶対に真似してくださいではありません。

解答解説に書かれた解法は、解答解説を作成した方にとっての最適解なので、皆さんにとっての最適解ではない場合もあります。

特に計算問題は複数解法があることも多く、計算のアプローチも様々なので、答えが一致していればOKくらいで考えれば問題ありません。

あくまで参考と捉え、自身の一番解きやすい解き方を構築してください。

⑤完璧を求めない

問題の中には電験二種レベルに相当する難問もありますが、

電験三種の出題形式から難問であっても5点しかもらえないので、

そういった理解に時間がかかる難問は理解しなくても大丈夫です。

ただし、冒頭にあった通り過去問題が出題される傾向ですので、

難問であっても特徴的なものは本試験前に軽く見ておくと、もし出題された場合、得点できるかもしれませんので、

最後まであきらめずに試験に臨むようにしましょう。

今後の出題がどのようなであっても、学習の基本方針は、「原理を理解し、公式・定理を使いこなし、得点すべき問題を、計算ミス・勘違い・思い込みなどせず確実に得点できる実力を身に付ける」です。

テキストなどによるインプット、過去問題によるアウトプットを繰り返し、効率よく実力を向上しましょう。

盤石な基礎を身につけることで、どんな出題に対しても得点が安定します。